

学校法人 仙台育英学園 秀光中等教育学校

二〇二〇年度 第一次仙台・山形選抜試験

国語

(第一問～第四問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないこと。
- ・この問題冊子は十二ページあります。
- ・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の――線の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 落とし物を探す。
- ② 試合開始の笛が鳴る。
- ③ 往復券を買う。

問二 次の――線のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① シゴトが早く終わる。
- ② 新しいテチヨウを買う。
- ③ 目をトじる。

問三 次の――線は同音異義語です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① カイトウ用紙に記入する。
アンケートにカイトウする。
- ② 大統領と会うキカイがあった。
体育でキカイ体操をする。
- ③ 太平洋をコウカイする。
新作映画がコウカイされる。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」といいます。熱帯低気圧のうち、北西太平洋にあり、最大風速（10分間の風速の平均）が秒速およそ17メートル以上のものを「台風」と呼びます。

B 海面水温が高い熱帯の海上は、海水が蒸発し、それが雲になることによって、強い上昇気流が発生しやすいところでは水です。この気流によって次々と発生した積乱雲（雲の材料は水です）がまとまって渦をつくりまわります。渦の中心付近の気圧が下がり、さらに発達して熱帯低気圧となり、風速が秒速17メートルを超えると台風と呼ばれるようになります。

C 台風は周辺の風に流されて移動します。また、地球の自転の影響で、周りに風が吹いていなくても北西へ向かう性質があります。日本付近にきた台風は、上空を吹く強い西風（偏西風）の影響で、多くの場合、北東へ進みます。

D 暖かい海面から供給された水蒸気（気体）が水滴（液体）になるときに放出される熱をエネルギーにして台風は発達します。なので、台風は暖かい空気のかたまりです。中心の上空には、周辺より暖かい空気のかたまりである「暖気核」があります。

日本付近の上空には冷たい空気があり、それが台風の暖かい空気と混ざり合おうとするため、寒気と暖気の境である前線を伴う「温帯低気圧」に変わります。台風の温帯低気圧化とは、台風の構造が、温帯低気圧の構造に変化したということなのです。

また、熱エネルギーの供給が少なくなると、風速が小さくなり「熱帯低気圧」に変わります。上陸した台風がよく衰えるのは、水蒸気の供給がなくなり、さらに陸地との摩擦によりエネルギーが失われるからです。

ただし、温帯低気圧になっても、再発達して強風を吹かせたり、熱帯低気圧になっても、強い雨を降らせたりするので油断できません。台風は a 台（鯛）！

E 進行方向に向かって右の半円では、台風の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため、^①地上付近は風が強くなる傾向にあります。逆に左の半円では、台風の風と周りの風が逆になるので、右の半円に比べると、地上付近の風速は相対的に弱くなります。

台風の中心は「目」と呼ばれ、ここは風が比較的、弱い領域です。しかし、目の周辺は最も強く風が吹いています。ちなみに、風は地形の影響を受けやすく、入り江や海峡、岬、谷筋、山の尾根などでは強く吹きます。また、大きな建物があると、ビル風と呼ばれる強風や乱流が発生するの

で注意が必要です。

台風が接近すると、特に進行方向の前方右側を中心に、竜巻が発生することがあります。また、台風が日本海に進んだ場合には、台風に向かって南よりの風が山を越えて日本海側に吹き下りることによってフェーン現象が発生します。フェーン現象が起こると、空気が乾燥するため、火災が発生した場合は燃え広がりやすくなります。

F ^② 台風は、強い風とともに大雨をもたらします。台風は積乱雲が集まったもので、雨を広い範囲に、長い時間にわたって降らせます。

台風の目の周りには発達した積乱雲が壁のようにあり（壁雲）、そこは猛烈な暴風雨になっています。壁雲のすぐ外側にも、連続的に激しい雨をもたらす積乱雲があります（スパイラルバンド。インナーバンドとも）。さらに外側（台風の中心から200～600キロメートル）にも、断続的に激しい雨を降らせたり、竜巻をもたらしたりする、帯状の雨雲があります（アウターバンド）。

台風だけでも大雨をもたらしますが、日本付近に前線が停滞していると、台風から流れ込む暖かく湿った空気が前線の活動を活性化させ、大雨となることがあります。

また、台風の移動速度が遅い場合、総雨量が多くなるので、さらなる警戒が必要です。

（答えはすべて解答用紙に記入しなさい）

大雨によって、河川が増水したり堤防が決壊したりして、浸水や洪水が起こることがあります。また、山崩れやがけ崩れ、土石流などの土砂災害も起こる危険性があります。

G 台風が近づくと、潮位が大きく上昇する、「高潮」や「高波」が発生することがあります。高潮は、次の2つの要因によって起こります。

1つは、吸い上げ効果と呼ばれるものです。台風を中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気が海水を押し下げ、中心付近では空気が海水を吸い上げるように働く結果、海面が上昇します。

2つめは、吹き寄せ効果です。台風に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

遠浅の海や、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合は、特に潮位が高くなります。海岸に近いところでは高潮による浸水に備える必要があります。

また、強風によって発生した高波も危険です。波が高くなってきた最中にサーフィンをしたり、海の様子を確認するために近づいたりして、高波にさらわれる事故が毎年のように発生しています。

私（山田）「きた、きた！ きたー！」
パイロットA「おおー！」

パイロットB「これが台風の目か！」

台風研究者と観測装置を乗せた小型ジェット機が台風第21号の目に入った瞬間、操縦席に歓声が沸き起こりました。視界ゼロの雲の中を30分以上飛び続けたあと、目の前に突如として広がったのは（図1・1）の景色でした。眼下に広がる低い雲と、その切れ目から見える青い海。それを取り囲むのは、野球スタジアムの観客席のように斜め上方にそびえ立つ壁雲（または「へきうん」）。その上空には吸い込まれそうな紺碧の空が広がっていました。

2017年10月21日、鹿児島空港を飛び立った小型ジェット機「ガルフストリームⅡ」は、午後2時30分に目の中に進入し、気象観測装置「ドロップゾンデ」を高度13・8キロメートルの上空から投下しました。投下して数秒後に、気圧・気温・湿度・風向・風速の情報が無線により1秒間隔で受信できているのを確認しました。これが、

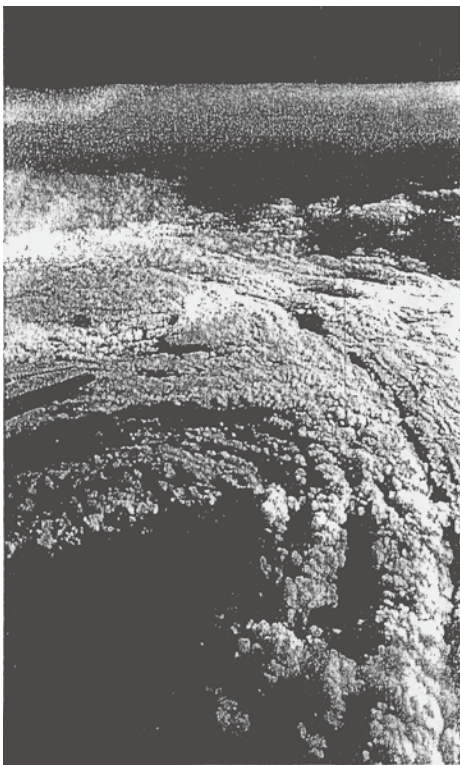


図1・1
航空機から撮影した台風第21号の目の中の様子。

日本の研究チームが航空機を使って台風の目の中に入り、初めて気象のデータを取った瞬間です。

④ 台風第21号は、日本の南海上を北北東に進み、静岡県のおまえざき御前崎付近に上陸しました。気象庁の発表によると、中心気圧が915ヘクトパスカルまで下がる非常に強い台風でした。

私たちが初めて目に進入した10月21日の衛星画像では、目のはっきりして、その周りをドーナツ状の雲が取り囲んでいます。目の大きさは直径90キロメートルで、比較的大きいものでした。先ほども紹介しょうかいしましたが、このドーナツ状の雲のことを「壁雲」といい、台風の中で最も強い風が吹き、強い雨が降る危険なところとして知られています。

(筆保弘徳／山田広幸／宮本佳明／伊藤耕介／山口宗彦／金田幸恵「台風についてわかっていること知らないこと」)

問一

aには、「本来すぐれた値打ちを持つものは、おちぶれ、ダメになってもなお、それなりの値打ちがある」というたとえの、「鯛たい」に続く表現が入ります。その表現として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 流されても(鯛)
- イ 腐くさっても(鯛)
- ウ めでたければ(鯛)
- エ 飾かざられても(鯛)

問二

——線①「地上付近は風が強くなる傾向けいこうにあります」とありますが、太平洋沿岸でこの強風が吹くとき、その地域では、自然災害をもたらすものとして、ほかにどのような気象現象が心配されますか。Eの四つの段落の組み合わせから一つの言葉を書き抜いて答えなさい。

問三

——線②「台風は、強い風とともに大雨をもたらします」とありますが、この強風、大雨をもたらすのは積乱雲です。それをつくるものは、Bの段落では「(雲の材料は水です)」と説明されていますが、その水である前はどのような状態のものですか。Dの四つの段落の組み合わせから一つの言葉を書き抜いて答えなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

問四 ——— 線③「上空には吸い込まれそうな紺碧こんぺきの空が広がっていました」とありますが、それはどのような光景の説明ですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 積乱雲の上空には強風や大雨がない青い空が広がっていたこと。

イ 台風の上には気圧が低いので吸い上げられた雲が広がっていたこと。

ウ 積乱雲の上空には雲の群れが形成されドーム状に広がっていたこと。

エ 台風の目の上には青い海の光を反射する低い雲が広がっていたこと。

問五 ——— 線④「台風第21号は、日本の南海上を北北東に進み」とありますが、この台風は日本に近づく以前の南海ではどの方向に進んでいましたか。Cの段落を参考に答えなさい。

問六 ——— 線⑤「このドーナツ状の雲のことを『壁雲』といい」とありますが、「壁雲」（「かべぐも」、または「へきうん」と読む）は、なぜ「壁」という語が使われているのですか。この段落やFの五つの段落の組み合わせを参考にその理由を十五字から二十字で答えなさい。

問七 本文のA～Gの段落や段落の組み合わせには、もともと

タイトル（標題、見出し）がついていました。次のⅠ～Ⅲのタイトルは、どの段落、または段落の組み合わせにつけられたものですか。それぞれA～Gから一つ選び、記号で答えなさい。

Ⅰ 熱帯にある台風が、どのように日本まで来るの？

Ⅱ 台風の風、どこが危ない？

Ⅲ 台風はどのように生まれるの？

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学5年生の大沢喜樹の祖父、庄蔵は林業を営んでいるが跡継ぎがいなかった。そのような時に百年杉を切り倒すことになり、喜樹と姉の楓は庄蔵について山に入ることにした。

杉木立を両側に見ながら、山道を上へ上へと登っていく。

冬でも葉の落ちない杉山は、朝の九時だというのにほの暗く、湿って冷たい空気が満ちていた。吐く息は、ほわりと白い形に変わり、枯葉を踏みしめる音も、鳥のさえずりも、山の中にしみ込むように消えていく。不思議なほどに静かだ。

風で吹き折れた杉の枯れ枝が足にからまって、喜樹は何度か **I** になった。

「昔は、山道もからっとして、枯れ枝ひとつ落ちていないもんだった」

庄蔵は、枯れ枝をナタの先で払いながら進んだ。

「煮炊きも風呂もみんな薪だったから、里のもんがきれいに拾って行ったのさ」

庄蔵が、だれに向かってでもなく、小さくつぶやいた。

「年々、山も荒れていくなあ……。わし一人の手にはあまるわ……」

返事を返すものはいない。みんな、だまって歩いていく。

庄蔵のつぶやきは、そのまま山の木々の間に吸いこまれて

いった。

A

二十分も登ったところで、庄蔵が手をあげ、前方を指差した。

百年杉が、ずんとそびえていた。

空を指すことだけを考えて生きてきたかのよう
に、太い幹がまっすぐに伸びている。

喜樹は、木肌に触ってみた。かさぶたのような茶色い木の皮は、思いのほかしっとりとしている。内側から手の平をぐっと押し返されるような感触に、喜樹はハッとした。

（百年杉……。こいつは、確かに生きている！）

「喜樹、そっち側から手をよこしてみて」

楓が杉に抱きつくように両腕を回した。喜樹も反対側から杉を抱くように手を伸ばした。

楓と手を結ぼうとした喜樹は、姉の指先を見て、

え？ と眼をしばたかせた。

いつも念入りとがらせていた爪先が、きれいに切りそろえられている。そういえば、毎日時間をかけていた巻髪にも、このところお目にかかっていない。

「ほら、はやく！」

楓の声にせっつかれ、喜樹も手を伸ばした。

（うわあ、すげえ太い。そのうえ、ごつごつしてすげ

えかたい！」

喜樹は、(おれが百年以上を生き抜いた証しを覚えておけ!)と、杉の大木から自分の両腕と腹全体に、刻印されているような気がした。

庄蔵が、せいやんとつんつあんとならんで、百年杉の幹の周りに立った。そのまま、木に向かってずっと手を合わせた。

楓が喜樹の横腹を突き、「手を合わせろ」と唇を動かした。

喜樹は、自分まで神妙な姿をすることが、気恥ずかしかった。けれども、その場に漂う神聖な気配に押され、楓にならってそっと手を合わせた。

目を開くと、せいやんが、閉じた唇にぎゅっと力を込め、腕組みをして杉を見上げているのが見えた。

楓は、気持ちが高揚したように、
Ⅱ 声で喜樹にささやいた。

「見て、ぞくぞくするよ。さすが木こり職人だね。どうやって木を伐るか、イメージしてるんだよ」

喜樹は、思わず
Ⅲ 。ひとり、静かに考え込むせいやんは、いつもよりもひとまわり体が大きく見えた。百年杉を伐り倒すという仕事の大きさが、喜樹にも伝わってくる。

ブルンブルンブルンブルン…

つんつあんが、オレンジ色のチェーンソーを地面に置き、

ロープを力いっぱい引き上げる。

チェーンソーが白い煙を上げ、けたたましいエンジン音を響かせる。

喜樹は、かすかに、油の匂いが漂ってくるのを感じた。

「あ、始まる！」

楓が小さく叫んだ。

正彦が、楓を守るように、そっと肩を抱き寄せた。

細かい木屑を吹き出しながら、百年杉の根元にチェーンソーの刃が吸い込まれていく。

つんつあんが肩をいからせ、チェーンソーを自在に操っていく。

「すげー」

目の前の迫力に、喜樹は度肝を抜かれた。

つんつあんは、まず真横に切れ目を入れ、次に斜め上から切り込んで、きれいに三角の切り込みを作った。

(あれが、受け口だな)

三角の切り込みに、楓が教えてくれた言葉が重なった。

つんつあんは一旦作業をやめて、もう一度あたりを確認した。慎重に慎重を期している。次に、せいやんが反対側から追いつく口を作るための、チェーンソーを入れていく。

ブルルルルブンブン

離れていても、チェーンソーの音が鼓膜を激しく震わせる。

「ここが伐採の醍醐味だ。喜樹も、『ツル』という言葉覚えておくといいぞ。せいやんは、つんつあんの少し高めを切っているだろう? 一度に切ったら木はとんでもない方向に倒

れてしまう。だから、追い口と受け口の間に、『ツル』という間隔を残して、ぎりぎりまで木を繋ぎ止めておくんだよ」

喜樹はぎよっとして振り返った。声の主は正彦だった。

「ツルのあつかいひとつで木の倒れる方向が決まる。ここからは、せいやんの職人技だなあ」

隣の愛子が、「え？」と、戸惑ったような声を出した。

喜樹は、楓ばかりか正彦からも、山の専門用語が出てきたことに、意表をつかれた。

「すごいなあ。父ちゃんも、山にくわしかったんだ」

喜樹が思わずうなると、楓は、ふふんと鼻の先で笑った。

「へえ、父ちゃんも一応勉強だけはしてるんだ」

「おれも、本でちょっと読んだだけさ」

正彦は、力なくほほ笑んだ。

庄蔵が、待避所に向かって走ってきた。いよいよ杉が倒れるのだ。

杉がギギギとにぶい音を立てながらゆっくりと傾き始めた。

喜樹には、目の前の光景が、まるでスローモーション映像のように見えた。

バキバキメキメキというけたたましい音が、山の空気を切り裂いていく。

折れた杉の小枝が、ばらばらと火花のように散っていく。
(あぶない！)

心の奥で、危険を知らせるアラームが鳴り響くのを感じて、喜樹は思わず、正彦の腕にぎゅっとしがみついていた。

百年杉は、木立の隙間を、ちょうどねらったように倒れ込んでいく。根元がぱっくり開き、切り口が白い円の形になって目に飛び込んできた。

ズドドン！

すさまじい音が山全体を揺らし、木の根元が地面を打って何度か跳ね返る。地面から伝わってきた振動が、喜樹の体をぶるぶると震わせながら頭のとっぺんまでかけ抜けていった。

「おうー！」

「おうー！」

そこにいた皆が、まるで申し合わせたように、いっせいに声を上げた。

①喜樹は、自分の体がかすかに震えているのを感じた。

「地響きすごかったよね。これが、百年の重みなんだよね」
楓が目を輝かせて喜樹を振り返った。

「う、うん……」

喜樹は、そう言うのがやっとだった。

(木を倒すって、めちゃうちゃ、すごいことなんだな……)

喜樹は興奮が冷めずに、しばらくの間頭がぼーっとしていたが、つんつあのOKの合図で、倒れた杉に歩み寄った。

「百年以上もかけて育てた木を伐ってしまうなんて、なんだか、もったいないね……」

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

すると庄蔵が、喜樹が思わずもらした言葉を、ぴしゃりと打ち消した。

「いいや、ちがう。この山は人の手で代々作りあげてきた山なんだ。伐られた木も、家具になり家の材になって、そこからまた新たに、何十年と生きていくんだぞ。伐って使うことで木が循環し、山として成り立っていくんだ」

「ほだよ、喜樹ちゃん。このあとにはまた杉の苗を植える。また新しい木が百年かけて育っていくんだ。それが山の生業^{わい}ってものだ」

せいやんは、地面にどっかとあぐらをかくと、切り株^{かぶ}の木肌をなでた。

「この年で、こだな立派^{りっぱ}な杉を伐らせてもらって、もうけんだわ」

「この山では、この杉が最後の大物だったな。あとは、おれのおやじが戦後に植えた木が育つのを、じっくり待つことだ」

庄蔵は、そう言うと言喜樹の顔を見た。

—— 今度はお前が山を育てる番だぞ。

喜樹には、庄蔵の目が、そう言っているように思えた。

③ 急に目の前の山が、ずんと自分におおいかぶさってくるように、息苦しい感じがした。

(堀米 薫「林業少年」
(問題の都合上本文を一部省略しました。))

問一 **A**の中から百年杉がもつ雰囲気表現した言葉を五字で書き抜きなさい。

問二 ⅠⅡⅢに入れるのにふさわしい言葉を次のア～カから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | |
|---|---------|---|--------|
| ア | 落ち込んだ | イ | うわずった |
| ウ | 息をのんだ | エ | ほえんだ |
| オ | つんのめりそう | カ | 走り出しそう |

問三 ～～～線 a～c の言葉の意味としてふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | a 度肝を抜く | | | | b 期する | | | | c 意表をつく | | | |
|---------|---------|---------|---------|-----------|-----------|------------|---------|----------------|----------------|------------|-----------------|
| ア | イ | ウ | エ | ア | イ | ウ | エ | ア | イ | ウ | エ |
| ひどく落ち込む | ひどくあわてる | ひどくおどろく | ひどくおびえる | 結果としてそうなる | 確実にやろうとする | 忘れずに記録しておく | 事前に計画する | 誰も知らないことに得意になる | 当たり前のことでがっかりする | 難しいことに尊敬する | 考えもしなかったことでおどろく |

問四

——線①「喜樹は、自分の体がかすかに震えているのを感じた。」とありますが、喜樹はなぜ体が震えたのですか。次の□に当てはまるように答えなさい。

喜樹は、
□
に圧倒されたから。

問五

——線②「山の生業」について次の問いに答えなさい。

(1)「生業」の意味としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 暮らしを成り立たせるための職業
- イ 長い時間をかけて受けつがれた暮らし
- ウ 自然の法則に従って成り立つ環境
- エ 人間と他の動物が共存できる場所

(2)ここでの「山の生業」とはどのようなことですか。次の□に当てはまるように、本文中からふさわしい言葉を書き抜きなさい。ただし、()内の数字は字数を表します。

山は **a** (三字) で作りあげ、切られた木も **b** (二字) になり、新たに何十年と生きていく。そして木を切った後にはまた **c** (五字)。そのように木が **d** (二字) して山が成り立っていくこと。

問六

——線③「急に目の前の山が、ずっと自分においかぶさってくるようで、息苦しい感じがした。」とありますが、この時の喜樹の気持ちを説明したものと最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 木は家の材となって生き続けるという考え方に感心するとともに、森を育てる勉強をしなくてはいけないという責任を感じている。

イ 百年以上もかけて育った杉の木の生命力におどろきを感じるとともに、自分が本当に木を切り倒せるのか不安をつのらせている。

ウ 何代にもわたって続く林業の重みを感じるとともに、自分が後をつがなくてはそれが途絶えることも実感し、プレッシャーを感じている。

エ 杉の木を切り倒す庄蔵の姿を目の前で見て、その迫力に恐怖を感じ自分にはとうていできないと逃げ出したくなっている。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第四問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

迷子^{まいご}になった。スマホを忘れて待ち合わせた店の住所も会う相手の電話番号も分からない。前に行った記憶^{きおく}で景色に見当が付くかと思ったら、東京・銀座の碁盤^{ごばん}目状の道はどれも似ている。

交番^{たず}で尋ねても店舗^{てんぽ}の名簿^{めいぼ}に載^のっていない。公衆電話の番号案内に問い合わせたら登録がない。30分さまよい、とうとう見知らぬ人に声を掛け、スマホで調べてもらってやっとたどり着いた。我が身のスマホ依存^{いぞん}が嘆^{なげ}かわしい。

① 便利すぎる生活の裏側には、人間らしさを損^{そと}なう陰^{かげ}が張り付いている。コンビニがなくなったら生活難民が続出するだろう。至^{いた}れり尽^つくせりの宅配便も当たり前になった。

各地で痛ましい自動車事故が相次いでいる。高齢者ドライバー問題として議論されているが、技術者の知人^②は目からウロコの視点を説く。「機械の大きさや複雑さの割に運転が簡単すぎるのが間違いだ。自動車への驚異^{きょうい}や恐れがなさすぎる」。

確かに人間が1人移動するのに、5メートル超^{ちよう}の金属の塊^{かたまり}が人間業^{わざ}でない速度と力で動く様はいかにも不釣り合いだ。頻発^{ひんぱつ}するアクセルとブレーキの踏み間違いも、日米以外のマニユアル車が当たり前の地域ではあまり聞かない。

効率^{こうりつ}や快適さの追求は、科学技術や社会システム発展の原動力だ。核エネルギーやプラスチックもそうだった。③しか

し、便利さに慣れすぎると、思わぬ形で報復^注されることも私たちは嫌というほど経験している。

(毎日新聞「余録」二〇一九年五月二〇日掲載)
(問題の都合上本文を一部省略しました。)

注 報復……しかえし

問一 線①「便利すぎる生活」とありますが、その

「生活」はどのようなものになっていますか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 多くの情報がスマホに掲載^{けいさい}され、ほとんどの人がスマホ依存になってしまうこと。

イ 現代では、効率や快適さが当たり前となり生活の便利さに慣れてしまうこと。

ウ 自力で探すことができるはずが、機械に頼ってしまっていること。

エ 見知らぬ人に声をかけることが面倒くさくなってしまっていること。

問二

——線②「目からウロコ」とありますが、この意味としてふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 物事の急な展開におどろいてあわてふためく。
- イ 今までになかった物事が急に見え始めてくる。
- ウ 急に本来の姿を理解できるようになる。
- エ 目から涙が出そうになるくらい感動する。

問三

——線③「しかし、便利さに慣れすぎると、思わぬ形で報復されることも私たちは嫌というほど経験している。」とありますが、便利なあるものがなくなったり使えなくなったりした時の困った状況の例を一つ書きなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)